



平成 19 年 7 月 20 日

各 位

上場会社名 **グロリー株式会社**

代 表 者 代表取締役社長 西野 秀人

本社所在地 兵庫県姫路市下手野一丁目3番1号

コード番号 6457

上場取引所 東証第一部、大証第一部

決 算 期 3月

問 合 せ 先 広報・IR室長 小西 隆之

T E L (079)297-3131

平成 20 年 3 月期 業績予想(連結・単独)の修正に関するお知らせ

平成 20 年 3 月期(平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)の業績予想につきまして、平成 19 年 5 月 17 日付けの「平成 19 年 3 月期 決算短信」に記載の平成 20 年 3 月期業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 20 年 3 月期 連結業績予想値の修正

(1) 中間期(平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日) (単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (平成 19 年 5 月 17 日)	90,000	8,000	8,000	5,000	67 円 44 銭
今回修正予想(B)	100,000	12,000	12,000	7,500	101 円 57 銭
増減額(B) - (A)	10,000	4,000	4,000	2,500	
増 減 率	11.1%	50.0%	50.0%	50.0%	
<ご参考> 前期実績 (平成 18 年 9 月中間期)	77,327	5,317	5,828	3,752	50 円 61 銭

(2) 通期(平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日) (単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (平成 19 年 5 月 17 日)	170,000	12,000	12,000	8,000	107 円 90 銭
今回修正予想(B)	185,000	18,000	18,000	12,000	162 円 51 銭
増減額(B) - (A)	15,000	6,000	6,000	4,000	
増 減 率	8.8%	50.0%	50.0%	50.0%	
<ご参考> 前期実績 (平成 19 年 3 月期)	164,539	12,960	13,406	6,461	87 円 15 銭

2. 平成 20 年 3 月期 個別業績予想値の修正

(1) 中間期(平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日) (単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (平成 19 年 5 月 17 日)	75,000	7,000	8,000	5,000	67 円 44 銭
今回修正予想(B)	84,000	10,000	11,000	7,000	94 円 80 銭
増減額(B) - (A)	9,000	3,000	3,000	2,000	
増減率	12.0%	42.9%	37.5%	40.0%	
<ご参考> 前期実績 (平成 18 年 9 月中間期)	43,536	3,032	5,088	3,723	50 円 22 銭

(2) 通期(平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日) (単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (平成 19 年 5 月 17 日)	140,000	10,000	11,000	7,500	101 円 16 銭
今回修正予想(B)	150,000	14,500	15,500	10,000	135 円 42 銭
増減額(B) - (A)	10,000	4,500	4,500	2,500	
増減率	7.1%	45.0%	40.9%	33.3%	
<ご参考> 前期実績 (平成 19 年 3 月期)	113,733	9,835	12,099	29,115	392 円 69 銭

3. 修正の理由

中間期の業績について

売上面につきましては、金融機関における事務の合理化、厳正化などのニーズの高まりから、積極的な設備投資が行われ、基幹商品でありますオープン出納システムなどに加えて、海外の金融機関向け窓口用紙幣入出金機などが順調に推移する模様。また、来年7月から導入が決まっています、成人識別機能付きたばこ販売機の需要が前倒し傾向にあることから、期初予想を上回る見込みです。

利益面につきましては、プロダクトミックスの変化や海外生産によるコストダウン活動と量産効果などから期初予想を上回る見込みです。

通期の業績について

売上面につきましては、中間期同様引き続き、基幹商品でありますオープン出納システムや海外の金融機関向け窓口用紙幣入出金機などの設備投資が順調に推移することから期初予想を上回る見込みです。

利益面につきましては、中間期同様引き続き、プロダクトミックスの変化やコストダウン活動と量産効果などから期初予想を上回る見込みです。

上記の予想は現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果になる可能性があります。

以上